



WAVE

70

Contents

- 2 日本ミツバチがいる自然環境を！
- 3 ずっとハニーBeeで働いていたい
- 4 ワーカーズ紹介 こうさてん

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会

2023年2月

労協法で

これからの時代の葬送支援

孤立を防ぐ第4の縁を協同労働で広げる

労働者協同組合
結の会

労働者協同組合法(以下労協法)が2022年10月に施行されました。労働者が経営者であり出資者であるという、一般的の働き方とは違う「協同労働」を規定する法律が、いよいよ効力を発生させました。

働き手が自らの働き方を決めることができる「協同労働」の実践の様子と有効性について各地で説明会が開かれました。

この間に設立された「労働者協同組合ワーカーズ葬祭&後見サポートセンター結の会」(以下結の会)を紹介します。



労働者協同組合法実践セミナー埼玉県西部エリアにて「結の会」の事業が報告された

2022.12.3 川越市



「結の会」代表理事
中下大樹さん

急激な人口減少と多死社会に、 人の幸せを考える

死を身近に考え生きることが生の充実につながると「結の会」代表理事の中下大樹さんは考えます。今まで孤立して苦しむ人に寄り添い支える仕事を選び、社会福祉士、僧侶、早稲田大学

講師となり、緩和ケア病棟で末期がん患者の数百名の看取りから、大学での教鞭をとりつつ僧侶、葬儀社スタッフとして生活困窮者を中心に2,000件を超える葬送支援などを行ってきました。

中下さんは20年前から、日本の人口減少に伴う社会の変化に対して警鐘を鳴らしていました。4割近くが単身世帯となり、「家族」「地域」「会社」の3つの縁が昔のように機能しなくなった現代社会。孤立する人の増加を肌で感じる中下さんたちは、政治が何もできないのなら自分たちで行動しようと事業を立ち上げました。

第4の縁をつなぐ

「結の会」では現在中下さん始め、看護師、石材店の社長等、生死に関わる仕事の専門家が事業にたずさわります。働く人同士が相互扶助の精神で

つながる労働者協同組合を知ると、それは「結の会」の理念に沿うものでした。

事業では、看取りから葬儀、死後手続きの代行などオーダーメイドの葬送支援、遺言作成や成年後見のサポートなど旅立ちの準備のお手伝い、各種勉強会の開催、第4の縁をつなぐための互助会制度の案内などを行っています。死に向かい、より良く生きるために様々なサポートを用意しています。お独りの方には「結の会」が第4の縁者にもなります。まず不安や悩みを相談することもできます。

これからの時代に必要とされる第4の縁。協同労働の力でつなげ、孤立を防ぎ、苦しむ人を少しでも少なくできるようにという「結の会」の事業が期待されます。

「結の会」では生き方から終い方まで不安や悩みに寄り添う学習会も開催しています。HPをご覧ください。

労働者協同組合
ワーカーズ葬祭&後見サポートセンター結の会

TEL 03-6824-0723

<https://www.yuinokai-roukyou.com>

「結の会」は埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会の第2号会員です。

日本ミツバチがいる自然環境を!

企業組合ハニーBee 養蜂事業の取り組みから

古来より日本に生息する日本ミツバチはとても環境に敏感です。近年農薬などの影響から極端に減りつつあります。蜂蜜が多く採取できるセイヨウミツバチの養蜂が主流のなか、日本ミツバチの養蜂は数が少ないことも知られています。

武蔵野の台地と言われる三富新田は、落ち葉をたい肥にする循環型農業を実践している地域、その地域で養蜂業を試みた企業組合ワーカーズ・コレクティブハニーBee の養蜂事業から見える自然環境と蜂の世界、自然環境と日本ミツバチの生態、採蜜について紹介します。



環境に敏感な日本ミツバチ

日本ミツバチは、5千~2万匹で群れを成し1キロから2キロ移動します。

体が小さく、セイヨウミツバチとの区別はわかりやすく、働き蜂は全体的に黒っぽく、比較的おとなしく滅多に刺しません。環境の変化や刺激にも敏感で逃げてしまうこともあります。巣箱が空になることもあります。農薬など生きていけない環境から逃げて、暮らしやすい場を求めます。ハニーBee が設置している巣箱も空になったことがあります。

また、日本ミツバチは、プロポリスを作らないようです。

効率の良い セイヨウミツバチ

国内多くの地域で生息するセイヨウミツバチは、巣箱から逃げない性質があります。一か所にとどまる性質を利用し、プロポリスが採取でき、採蜜の収量も多く国内各地で育成され養蜂が行われています。

日頃街で見かける蜂蜜は、多くがセイヨウミツバチの蜂蜜です。



残したい三富新田



落ち葉は三富の森の恵み



コナラ・クヌギ・エゴなどの樹木が茂り、秋には落ち葉が地面を埋め尽くす武蔵野の大地と呼ばれる三富新田は、落ち葉をたい肥にする循環型農業を実践している地域です。「一反の畑に一反のヤマ」と言われるよう、よい作物をつくるために平地林からの恵みの落ち葉を土づくりに生かす農業が、昔から三芳町で行われてきました。

近年、地主の高齢化などで土地を手放す人や手入れが行き届かず下草を刈り取ることもできない状態になっている場所もあり、保存のため地域の人々による落ち葉はきなどが行われています。ハニーBee の養蜂は、この自然を守ることにもつながっています。最近では、巣箱の隣で畑作をする農家さんが、「蜂、飼っているんだもんね」と農薬の散布を控えてくれていて、地域の理解も進んでいます。

ミツバチを守って多様な自然を守りたい

ミツバチは花がなくては生きていけません。ミツバチが花の花粉と蜜をあちこちに運ぶことで多様な花が咲き、蜂蜜の生産にもつながります。その蜂蜜は「百花蜜」と呼ばれています。

ミツバチがいなくなったら75%の植物がなくなるといわれているそうです。人間も生きてはいけないかもしれません。日本ミツバチによる養蜂は、自然環境を守ることにつながっています。

資料提供 ハニーBee 新井



採蜜の様子



巣箱を見守る
ハニーBee のメンバー

ずっとハニーBeeで 働いていたい···

何年間も話し合った末にたどり着いた事業



私たちは、生協の組合員へ食材を届ける仕事を受託しています。食材と共に情報をミツバチのように届けよう、ということで事業体名をハニーBeeとしました。

現在、ハニーBeeでは、20代から70代、21人のメンバーが働いています。年齢も性別も働き方も週1日4時間から週5日フルタイム勤務と一人ひとり違います。働く理由も様々です。

第2の働く場、三芳町でできること

年齢を重ねて受託業務を行うことが難しくなった時に、生涯ハニーBeeで働き続けられる環境にしたい、と何年間も話し合ってきました。

事業所がある三芳町でできることを事業にしようと考え、3年前から日本ミツバチの養蜂を始めました。

三芳町は循環型農法が300年以上前から続けら

れています。そのため多くの平地林があります。その中の雑木林を無償でお借りし、養蜂を行っています。地主の方が高齢になり、雑木林の手入れが行き届かなくなっていました。荒れて、歩くことも難しい雑木林をメンバーと共に草を刈り、落ちている枝をまとめ、不要な木を切りました。端から端まで見渡せるようになった時、自分一人ではできないこともメンバー全員で力を合わせれば半日でここまでできるんだ、と感動しました。

もつと、もっと増やしたい巣箱

その平地林で養蜂を行い、植樹をし、落ち葉を掃き、その落ち葉を近くの農家の方々が堆肥に利用しています。ミツバチたちは農作物の受粉をお手伝いしています。

現在、巣箱は4基あり約40,000匹のミツバチがいます。事業として成り立つためには、巣箱が置ける場所を探し増やしていくかなければなりません。

現在は百花蜜（はちみつ）と石けんを販売していますが、パンやクッキーなども販売できればと思っています。また、はちみつを採集する採蜜体験イベントなども企画していきたいと考えています。



ハニーBee 江澤

幸せのゆきかうカフェ こうさてん

必要なのは 食・居場所・学習支援

作りたいのは、笑顔と友だちと「つながり」

設立してから 12 年、鴻巣市にある「こうさてん」は、コミュニティカフェ幸茶店を拠点として飲食サービス、学習支援、地域福祉サービス、障害福祉サービスなど、地域の課題を解決し、人とのつながりをつくる事業を行ってきました。今回子供に関する事業について紹介します。

埼玉県子供の居場所づくり推進事業を活用して

ワーカーズコレクティブこうさてんは、開業以来、小中高生を対象として「寺子屋」として学習支援事業を実施してきました。

2022 年度は埼玉県「子供の居場所づくり推進事業」に応募し、学習支援員の派遣を受けています。

これは、子ども食堂を含む子供の居場所を県内に増やしていくこうとする県の取組みによるものです。また、継続的に子供の居場所として学習支援をしていくものです。子供の居場所は誰でも申し込み無しで来られる場所として、毎月第三土曜日に開催しています。

コミュニティカフェ幸茶店

〒369-0121 埼玉県鴻巣市吹上富士見 3-1-7

Tel 049-598-7614

ホームページ <http://kousaten.que.jp/>

ワーカーズ・コレクティブ

ネットワークジャパン(WNJ)

全国会議 in 埼玉

2024 年 1 月 20 日(土) 21 日(日) 22 日(月)

会場: ウエスター川越

開催テーマ:

「いのちと暮らしを守るあたたかな経済
～ワーカーズ・コレクティブで広げよう
社会的連帯経済～」

1/20(土) 全体会 基調講演・懇親会

1/21(日) 6 つのテーマでの分科会

1/22(月) オプショナルツアー

全国のワーカーズ・コレクティブが川越に集結します。

川越市で
開催!



マンツーマンでの
学習支援



幸茶店 ある日の食事会



こうさてんホームページより

埼玉県 子供の居場所づくり推進事業

子供の居場所とは、「家でも学校でもなく居場所と思えるような場所」のことを言い、県内の運営団体の創意工夫により多様な形で展開されています。人とのつながりや教育・体験の機会を通じて子供の自己肯定感をはぐくみ、貧困や孤独・孤立の解消、コミュニティの再生などの役割も担っています。県では、運営手法、食品衛生管理、福祉制度についての専門家をアドバイザーとして派遣しています。

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会法人化へ

地域に点々とある 20 のワーカーズ・コレクティブがまとまり、連合会を作ったのは 24 年前。点を線で結び、地域社会に存在を示し、1 団体では難しいことを、連携することで実現し、支えあい、継続を目指そうと各ワーカーズ・コレクティブが資金を出し合っての連合会結成でした。

現在 46 団体が集う連合会になっています。今年さらに発展を目指し、埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会は一般社団法人として法人格を取得することとしました。

働き方の多様性や地域社会の課題に応える協同労働の働く場が地域に当たり前に存在することを目指します。